

3 主要果樹の栽培、他

- 主要果樹の年間作業
- 果樹の経営モデル指標
- 果物の販売について
- 果樹経営に取り組むに当たって

「かき」の主な年間管理作業

月	主な作業と時期	防除
4月	↑ 摘らい 4月下旬～開花前	①
5月		②
6月	↑ 摘果 7月～8月上旬 (追肥施用) 7月中～下旬	③④
7月		⑤⑥
8月	↑ 収穫 (早秋) 10月上～中旬 収穫 (早生富有、太秋) 10月中～下旬	⑦
9月		⑧⑨
10月	↑ 冬季管理 ・落葉処分、粗皮けづり ・土づくり (堆肥、土壌改良剤施用) ・間伐、整枝剪定	⑩
11月		
12月	↑ (基肥施用) 2月下旬～3月上旬	⑪
1月		
2月		
3月		

その他 必要に応じて実施する作業

- 接ぎ木 3月下旬～5月上旬
- 防霜対策 3月下旬～5月上旬
- 雑草管理 年間
(除草作業、草生栽培)
- 灌水、敷きワラ 5～11月
- 支柱立て、誘引 8月～収穫時
(台風対策)
- 枝の捻枝作業 6～7月
- 排水対策 随時

○柿の10a当たり作業労働時間

作業名	労働時間
整枝剪定	20
土づくり・施肥	9
摘らい	24
摘果	8
防除	10
収穫	35
粗皮削り	12
その他管理	29
合計	147



摘蕾作業 4月下旬～5月中旬

・ 1枝に蕾を1個にする



摘果作業 7月～8月上旬

・ 着果果実、着果量の見直し、病虫害果の除去など





収穫作業 10月～12月上旬

・収穫 → 家庭選別 → J A 出荷



間伐・整枝剪定 12月中旬～3月上旬

・翌年に向けた最も重要な管理作業



防除作業 年間随時

・スピードスプレーヤまたは動噴による防除作業



「なし」の主な年間管理作業

月	主な作業名 と 時期	防除
3月	摘蕾 3月下旬	①②
4月	人工授粉（開花期）	③④ ⑤
5月	摘果 5月～6月上旬	⑥⑦ ⑧
6月	袋掛け 6月上旬～下旬 （追肥施用）	⑨⑩ ⑪
7月	新梢誘引（幸水）	⑫⑬ ⑭
8月	収穫（幸水） 8月中下旬	⑮⑯
9月	収穫（豊水） 9月上中旬 収穫（あきづき） 9月中下旬	⑰⑱※ 中晩生のみ
10月	収穫（新高） 10月上～中旬 （礼肥施用）	⑲
11月		⑳
12月	冬季管理 ・落葉処分 ・土づくり（堆肥、土壌改良剤施用） ・間伐、整枝剪定、棚付け （基肥施用） 2月下旬～3月上旬	㉑
1月		
2月		

その他 必要に応じて実施する作業

- 接ぎ木 3月下旬～5月上旬
- 防霜対策 3月下旬～5月上旬
- 雑草管理 年間
（除草作業、草生栽培）
- 灌水 5～11月
- 多目的防災網 7～10月
- 枝の誘引作業 6～7月
- 排水対策 随時

○梨の10a当たり作業労働時間

作業名	労働時間
整枝剪定・棚誘引	80
土づくり・施肥	14
摘らい・摘果	30
授粉作業	9
袋掛け	23
防除	11
収穫・出荷販売	170
その他管理	61
合計	398

摘蕾作業 3月下旬～

・ 枝先端の蕾除去、予備摘蕾



人工授粉 4月上～中旬

・ 購入または自家採取花粉で授粉



摘果作業 5月～6月上旬

・ 3～4果叢に1果に摘果



袋掛け 6月上～下旬

・ 外観向上と病害虫対策



新梢誘引 6月下旬～

・「幸水」「あきづき」で実施



収穫作業 8月～11月上旬

・収穫 → 家庭選別 → 直売または市場出荷



間伐・整枝剪定 12月中旬～3月上旬

・翌年に向けた最も重要な管理作業



防除作業 年間随時

・スピードスプレイヤによる防除作業



「くり」の主な年間管理作業

月	主な作業名 と 時期	防除
4月		
5月		
6月	(追肥施用)	① ※塗布剤
7月	夏季剪定	②③
8月		④⑤
9月	収穫 (丹沢) 9月上中旬 収穫 (筑波) 9月中下旬 (礼肥施用)	
10月	収穫 (美玖里) 10月上～中旬	
11月		
12月	冬季管理 ・落葉処分	
1月	・土づくり (堆肥、土壌改良剤施用) ・間伐、整枝剪定	
2月	(基肥施用) 2月下旬～3月上旬	
3月		



その他 必要に応じて実施する作業

- 接ぎ木 3月下旬～5月上旬
- 防霜対策 3月下旬～5月上旬
- 雑草管理 年間
(除草作業、草生栽培)
- 灌水 5～11月
- 排水対策 随時

○栗の10a当たり作業労働時間

作業名	労働時間
整枝剪定	26
土づくり・施肥	9
防除	10
収穫・出荷販売	45
その他管理	2
合計	92



「もも」の主な年間管理作業

※飛騨地域の場合

月	主な作業名 と 時期	防除
3月	(基肥施用)	①
4月	摘蕾 4月上～中旬	②③
5月	人工授粉(開花期) 摘果 5月上旬～6月下旬	④⑤⑥
6月	袋掛け 6月下旬～7月上旬	⑦⑧⑨
7月	除袋、着色管理 7月中旬～8月中旬	⑩⑪⑫
8月	収穫(早生～中生種) 7月下旬～8月下旬	⑬
9月	収穫(晩生種) 9月上中旬 (礼肥施用)	⑭
10月	秋季剪定 9月中旬～下旬	
11月		
12月	冬季管理 ・落葉処分	⑮
1月	・土づくり(堆肥、土壌改良剤施用)	
2月	・間伐、整枝剪定	

その他 必要に応じて実施する作業

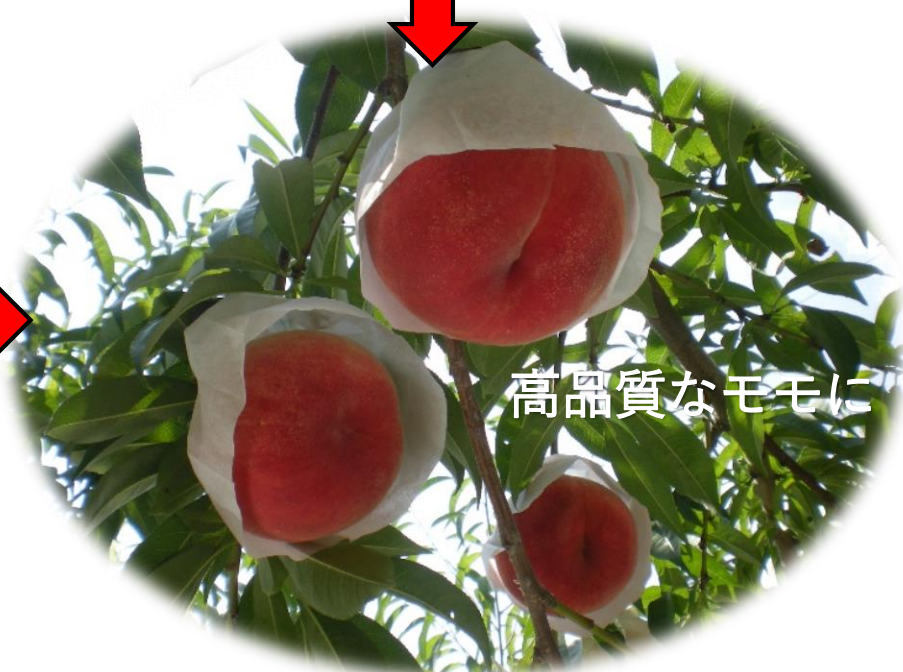
- 接ぎ木(芽接ぎ) 9月中旬
- 防霜対策 4月下旬～5月上旬
- 雑草管理 年間
(除草作業、草生栽培)
- 枝吊り、支柱立て 7月中旬
- 排水対策 随時
- 雪害対策

○桃の10a当たり作業労働時間

作業名	労働時間
整枝剪定	22
土づくり・施肥	8
摘らい・摘果	19
袋掛け	65
除袋、着色管理	20
防除	8
収穫・出荷販売	145
その他管理	27
合計	314

モモの着色管理

・袋掛け 6月下旬～ → 除袋 7月下旬～ → 反射シート 7月下旬～
※収穫時期により違う



「りんご」の主な年間管理作業

※飛騨地域の場合

月	主な作業名 と 時期	防除
3月	(追肥施用)	
4月	摘花 4月下旬～5月上旬	①②③
5月	人工授粉(開花期) 摘果 5月中旬～6月上旬	④⑤⑥
6月	袋掛け 6月上旬～下旬	⑦⑧⑨
7月		⑩⑪⑫
8月	夏期剪定 8月下旬～9月上旬	⑬⑭⑮
9月	除袋(各品種収穫前) 収穫(つがる) 9月中～下旬 (追肥施用)	⑯⑰
10月	収穫(中生品種) 10月上～下旬	⑱⑲ ※晩生種のみ
11月	収穫(ふじ) (基肥施用)	
12月	冬季管理	⑳
1月	・落葉処分	
2月	・土づくり(堆肥、土壌改良剤施用) ・間伐、整枝剪定	

その他 必要に応じて実施する作業

- 接ぎ木 3月下旬～5月上旬
- 防霜対策 4月下旬～5月上旬
- 雑草管理 年間
(除草作業、草生栽培)
- 着色管理 8月下旬～10月中旬
- 枝吊り、側枝誘引 7月
- 排水対策 随時
- 雪害対策 11月上旬～3月

○りんごの10a当たり作業労働時間

作業名	労働時間
整枝剪定	24
土づくり・施肥	8
摘花・摘果	34
袋掛け	11
除袋・着色管理	17
防除	10
収穫・出荷販売	165
その他管理	33
合計	302

【果樹の経営モデル指標の比較】

◎県内の主要品目の10a 当たり経営収支 (参考：県経営モデル指標R2)

品目	かき	なし	もも	りんご	くり
粗収益 (円)	611,856	1207,920	1,052,136	1,108,034	325,500
収量 (kg)	1,800	2,800	1,800	2,500	350
単価 (円)	340	431	585	443	930
経費 (円)	421,953	869,193	749,297	713,487	167,937
変動費 (円)	311,879	590,542	461,879	422,249	103,497
固定費 (円)	110,074	278,651	287,418	291,238	64,440
農業所得 (円)	189,903	338,727	302,838	394,548	157,563
労働時間 (hr)	147	398	314	302	92
時間単価 (円)	1,292	851	964	1,306	1,712
販売条件	品種：富有 市場出荷85%、 一部を直売。	品種：幸水 直売90%、 一部を市場 出荷。	品種：白鳳 直売85%、 一部を市場 出荷	品種：ふじ 直売95%、 一部を市場 出荷	実需者との 契約出荷 100%

※農業所得：基幹労働費含めてます

【果物の販売について】



JA共選による共同販売

- ・市場出荷
- ・JA直売所
- ・産地贈答



個人による直接販売

- ・地域内の朝市やJA直売所
- ・個人直売所
- ・観光果樹園（果物狩り）
- ・インターネット販売
- ・6次産業化に取り組やすい



契約出荷

- ・お菓子屋さん
- ・加工業者

	共同販売	個人販売
長所	<ul style="list-style-type: none"> ○出荷基準に準じて、出荷したものは全量販売してもらえます。 ○販売労力がかからない。 ○関係機関からの様々な情報提供、指導、支援がある。 	<ul style="list-style-type: none"> ○個人の基準により、価格形成・販売ができ、作ったものは、自分の力で売り切ることができる。 ○販売に係る手数料、出荷経費が少なく済む。 ○6次産業化に取り組みやすい。
短所	<ul style="list-style-type: none"> ○販売単価は市場相場に左右。 ○出荷のためのルールがある。（出荷基準、出荷時間・・・等） ○手数料、出荷経費がかかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○顧客確保に努力が必要（とくに新規開拓）。 ○販売に多大な労力がかかる（選果・箱詰め・送り）。 ○情報収集、技術習得は自助努力が必要になる。

【果樹経営に取り組むに当たって】

○話題 1

ブドウ「シャインマスカット」



ブドウの新植園

種無し・皮ごと食べられる「シャインマスカット」。

現在（R3）も全国で栽培面積拡大中。ブドウの品種構成や販売環境が様変わりした。

おそらく多くの方がブドウや果樹生産に取り組むきっかけにもなっている。

【栽培管理のポイント】

- 本県では、雨よけ施設（→病害軽減）は必須。
- 整枝剪定は、短梢仕立てで単純化可能。
- 無種子化、果粒肥大のためのジベレリン、ストレプトマイシン処理は必須。
- 4～6月にかけての新梢管理、摘房、摘粒作業は、適切な管理と技術が必要。

比較的取り組みやすくなっただが、やはり高度な技術と手間を要する樹種です。

○話題 2

盛土式根圏制御栽培法（ナシ）



大垣市の導入ほ場

少ない農地や排水不良地において、
集約的に取り組む場合や直売で多品目
取り組む場合の選択肢として…

【栽培技術の特徴】

○根域は鉢を使わず150Lの培土を盛土した状態。早期成園化、多収、労働負荷軽減を目的とし、根域制限で土壌と隔離することで土壌病害（紋羽病等）や排水不良等の影響を受けない栽培技術である（栃木県開発）。

- ・ 植栽本数 約160本/10a（株間2m×列間3m）。
- ・ 単収（栃木県試験データ）幸水5年目で6t/10a
- ・ Y字棚、防風ネット等の施設、自動灌水給液設備が必要で、導入コスト（約200万円/10a）の初期投資かかる。

よりよい果樹経営を行うために…

【課題】

- 圃場の確保（条件のよい土地、果樹園、基盤整備）
- 技術習得（とくに整枝剪定）
- 労働力の確保（短期雇用の確保）
- 販売方法…共販 or 直売 or 組合せ

家族経営が中心、規模
拡大に繋がりにくい 企業
的な経営が難しい…

【果樹栽培の始めるに当たって】

- 樹種、栽培方法の選択
 - ・地域の気象や土壌条件、販売環境、支援体制（技術支援、ほ場の確保等）を考慮する。
- 複数樹種（または品種）でリスク分散
- 農地の基盤整備
 - ・排水良好なほ場と水源の確保

【その他】 ・ 導入コスト ≠ 収益

「果樹栽培は充実感」

自分が食べたい、美味しいといえるものを作る

美しく、大きく、美味しい果物ができたときはうれしい

数年先の樹形や着果を考えながら取り組む永年性作物の栽培は面白い